

回歸大自然

图书在版编目 (CIP) 数据

回归大自然：风土与人情·望月睦幸写真集/ (日)
望月睦幸摄. —昆明：云南美术出版社，2004.10
ISBN 7-80695-167-9

I.回... II.望... III.①风光摄影—日本—现代—摄影集②云南省—摄影集③贵州省—摄影集
IV.J434

中国版本图书馆CIP数据核字 (2004) 第101846号

整体设计：林维东

图片调色：黄国贤

电脑制作：黄瑞棋

望月睦幸寫真集“回歸大自然”——風土と人情

発行日：2004年11月3日
著者：望月睦幸 (MOCHIZUKI MUTSUYUKI)
出版製作：雲南美術出版社
(中国雲南省昆明市環城西路609号)
発行販売：有限会社 グリン・プラン
Green plan pte Ltd
山梨県甲府市国母4-2-8 〒400-0043
電話、FAX: 055-227-1058
E-MAIL: gpmirai@yahoo.co.jp
後援：中国西南地域研究会
定価：¥4,500 (日元)

回归大自然——风土与人情·望月睦幸写真集

出版发行：云南美术出版社
(昆明市环城西路609号)
制版：深圳市国维制版有限公司
印刷：天时印刷(深圳)有限公司
开本：635×965 1/6
印张：36
版次：2004年10月第1版
印次：2004年10月第1次印刷
印数：1-2000
ISBN 7-80695-167-9/J·53
定价：300.00元

写真索引 / 图片索引

黄金色に映える稲田 金色的稻田	014
西江千戸寨(苗族の伝統建築が密集) 西江千戸寨(苗族传统建筑聚集地)	015
過苗年を祝う芦笙舞の夜、銀飾の幼児 着银饰的孩子—“欢歌载舞庆苗年”	016
過苗年を祝う芦笙舞の夜、盛装の姑娘 着盛装的姑娘—“欢歌载舞庆苗年”	017
雷山苗年文化周 豪華な民族衣装 华丽的民族服饰—“雷山苗年文化周”	019
普段着の苗族姑娘 身着素装的苗族姑娘	020
母親が丹精込めて仕上げた娘の晴れ着 母亲精心制做给女儿的盛装	021
収穫を祝う夕餉に酸湯豚肉をつまむ 丰收后晚餐上的酸汤猪肉	022
雷山苗年文化周 祭りて出会った少女 参加盛会的少女—“雷山苗年文化周”	023
雷山苗年文化周 闘牛を楽しむ 欢快的斗牛—“雷山苗年文化周”	024
盛装の尖尖苗 着盛装的尖尖苗	025
黒苗の娘 黒苗姑娘	026
葬儀のあと、食事にあずかる花苗族 安葬仪式上摆放供品的花苗	027
刺繍を楽しむ白苗の少女 精心刺绣的白苗少女	028
三つの鼓楼を取り囲む侗族部落 围绕三座古楼而居住的侗族村寨	029
侗族の踊りを披露する娘たち 表演侗族歌舞的姑娘	031
田圃に水を汲み入れる老漢族 车水的老汉族妇女	032
活発な彝族の娘たち 神采奕奕的彝族姑娘	033
布依族の婦人 布依族妇女	034
布依族の姑娘 布依族姑娘们	035
客人を迎える瑶族の娘たち 迎客的瑶族姑娘们	036
侗族の村と村をつなぐ風雨橋 连接村寨的侗族风雨桥	038
カルスト大地の朝焼け 石灰岩大地上的朝霞	039
初夏を迎えた漓江 漓江初夏景色	040
新年を祝う祭りに参加する娘たち 贺新年的姑娘们	043
ミャンマー国境の雲海 中緬边界的云海	044
棚田俯瞰図 梯田俯瞰图	045
原始壁画の里(海拔2,000M) 原始壁画的故乡(海拔2000米)	046
人物が描かれた古代壁画 描绘人物的古代岩画	047
太陽から点火した火種を囲炉裏で燃やし続ける 来自太阳的火种	048
日焼けした大侃の姑娘 纯朴的佤族姑娘	049
村の鍛冶屋 村寨里的打铁铺	050
キセルをくわえる大侃の女性 吸烟的佤族妇女	051
岩盆冷頭人(酋長)の住まい 头人(族长)岩盆冷的家	052
豪放磊落な頭人と、令婦人 豪放磊落的佤族老人与夫人	053
祖先祭りて出会った小侃の少女 祖先节上见到的佤族姑娘	054
稲や果実を供えた祭壇を囲む村人たち 围着祭坛供奉食品的人群	055
シャーマンの伝導で盛り上がる拉祜の祖先祭り 拉祜族传统的祖先节	056
目のきれいな優尼の姑娘 美丽的優尼姑娘	057
真新しい民族衣装が似合う拉祜の少女 身着民族服饰的拉祜少女	058
お揃いのロンジンをまとった娘たち 穿长裙子的傣族姑娘	060
糯米の束を運ぶ農民たち 挑稻谷的农民	061
稲の収穫を終えた水傣の人々 劳作之后的水傣人群	062
庭先で脱穀する家族 庭院中打谷的家族	063
ゆば造りをする婦人 制做豆腐皮的妇女	064
煎餅を干す長閑な風景 晒糯米粑粑	065

木果取りに夢中な子どもたち 摘野果的孩子	066
普洱茶を摘み終えた人々 采集普洱茶	067
ゴムの樹液を集める農婦 割橡胶的农妇	068
日中水浴びをする女性 露天沐浴	069
水神を祀った水がめ 傣族水井	070
旱傣族の女性 旱傣妇女	071
平地で見かける校倉造りの建物 堆放稻草的高脚屋	072
椰子(ヤシ科) 檳榔树	073
象鼻椰子(ヤシ科) 象鼻椰子树	074
おにばす(スイレン科) 王莲	075
ハイビスカス(アオイ科) 木槿	076
アジサイ(ユキノシタ科) 紫阳花	077
ブーゲンビリア(ウラボナ科) 叶子花	078
そてつ(常緑果実植物) 铁树	079
優尼の母子 優尼母子	080
バザールで出会った哈尼族の老婆 哈尼族妇女	081
拉祜納の姑娘 拉拉祜姑娘	082
三角帽子が似合う基諾族の若妻 头戴三角帽的基诺族妇女	083
狩猟のため原始林に出かける基諾の男たち 出猎的基诺族男人	084
野性美の布朗娘 朴实的布朗姑娘	085
三台山に続く裏山にパイアヤやバナナが繁る 三台山上的树瓜和香蕉	088
正装の紅崩竜(徳昂)婦人 穿礼服的德昂族(紅)妇女	089
紅崩竜(徳昂)の老女 德昂族(紅)老妇	090
お洒落な黒崩竜(徳昂)姑娘 潇洒的德昂(黒)姑娘	091
心優しい阿昌の娘たち 端庄娴静的阿昌姑娘	092
花崩竜(徳昂)の女性 德昂族(花)妇女	093
黒の山高帽子が似合う阿昌族婦人 头戴黑色高帽的阿昌族妇女	094
盛装した阿昌の娘 身着盛装的阿昌姑娘	095
結婚披露宴で再会した新郎新婦 婚宴上的新郎新娘	096
景頗族の春を祝う祭り目脳節 景頗族迎春目脑节	097
景頗族の姑娘 景頗姑娘	098
仲良しの景頗家族 和睦相处的景頗家庭	099
たわわに実ったバナナ 丰硕的香蕉	100
姑娘の微笑み 姑娘的微笑	101
莫六家(旱傣族)の晚餐 莫六家(旱傣)的晚餐	102
莫六家の奥さんと三女 莫六的夫人和三女儿	103
哀牢山の夕映え 哀牢山的晚霞	104
神話の古里風景 神画般的家乡风景	105
神秘に包まれた“哀牢山残映” 神秘的哀牢山残影	106
紅苗婦人 紅苗妇女	107
紅瑶の婦人たち 紅瑶妇女	108
玉龍雪山の黎明(海拔5,596m) 玉龙雪山的黎明(海拔5596米)	110
玉龍雪山(納西族三朵節のころ) 納西三朵节时的玉龙雪山	111
納西の勤勉さ(北斗七星)を伝える衣装(表面) 納西族服饰(披星戴月)正面	112
納西の勤勉さ(北斗七星)を伝える衣装(裏面) 納西族服饰(披星戴月)背面	113
怒江第一湾 怒江第一湾	115

マージャンに興じる納西の老婦たち 打麻将的纳西老人	116
盛装した白族の姑娘 (三月街祭) 着盛装的白族姑娘 (三月街盛会)	117
大理王国を思い起こさせる衣装 宋代“大理国”时期流行的衣着	118
怒江峡谷を往く (高黎貢山の石月亮を望む) 从怒江大峡谷远眺石月亮山	119
溜索で往き来する傈僳族の娘たち 乘溜索的傈僳姑娘	120
傈僳族の茅葺住居 傈僳山寨茅屋顶	121
怒族の石板、木板葺住居 怒族的石板、木板房	122
怒江峡谷のファンタジー 怒江峡谷幻想曲	123
自由市場で黒豚を買った黒傈僳の主婦 买猪的傈僳妇女	124
盛装の紅傈僳族婦人 穿盛装的红傈僳妇女	125
着飾った花傈僳族の少女 装饰美丽的花傈僳少女	126
笑いこける彝族婦人 大笑的彝族妇女	127
毛皮のチヨツキを着る彝族の女性 穿毛皮褂子的彝族妇女	128
帽子に庇を付けたファツションが似合う 装饰又遮阳的头饰	129
瀘沽峠 (海拔3, 290m) より落水を望む 从泸沽湖丫口眺望落水村 (海拔3290米)	130
神秘に包まれた摩梭人が暮らす瀘沽湖 神秘的泸沽湖	131
曾孫を抱く大祖母 (財産を守り家計を預かる) 祖孙情	132
阿其家の仏間 (信仰心が根づく摩梭人) 阿其家的经堂	133
阿其家の人々 (四方房住居の中庭で) 阿其的家人	134
孫娘が嬰兒を抱いて現れる (阿夏婚か?) 母子情	135
華麗な摩梭女性の服飾 (正装の従姉妹) 华丽的摩梭服饰	136
個性的な好青年 (摩梭人の気迫が伝わる) 摩梭青年	137
焚火を囲んで踊りに興じる摩梭の人々 围着火堆翩翩起舞的摩梭人	138
鉄やカルシウムが含まれた土林 含有铁和钙的元谋土林	139
風雨の侵蝕と凝結が繰り返された古代河川敷 新华土林	140
天地の創造 (自然が生み出した造形) 天造奇观	141
独竜渓谷をめざして高黎貢山を行く 穿越独龙峡谷走向高黎貢山	144
高黎貢山の瀑布 高黎貢山の瀑布	145
原生林を行く 原始森林	146
野営地での休憩 (海拔2, 510m) 独龙江途中の野炊 (海拔2510米)	147
普拉河源流の湿地帯 (海拔3, 522m) 独龙江途中の湿地帯 (海拔3522米)	148
独竜白魚を捕る (鱗のない白身魚) 捕捉没有鳞的鱼	149
揺れる蜘蛛の糸 (慣れた足取りで) 摇晃的独龙蜘蛛丝吊桥	150
点在する独竜族の家々 散居的独龙族住家	151
単包貝 (タンポツベ) を掲ぐ李秀蓮 春包谷的独龙妇女	152
紋面女①ほほえみ (娜祜摆70歳) 微笑的文面女——娜祜摆 (70岁)	153
紋面女②こだわり (李秀蓮65歳) 拘束的文面女—李秀蓮 (65岁)	154
紋面女③やすらぎ (年態73歳) 端庄的文面女 (73岁)	155
病床の紋面女 (開汝蘭55歳) 病中的文面女—开汝兰 (55岁)	156
紋面女と同居する娘家族 文面女的家族	157
明るい笑顔の幼子 满面笑容的独龙孩子	158
射止めた野牛の頭骨を戸口に飾る 避邪的野牛头骨	159
家族ぐるみで狩猟する (野猪、鹿、禽類) 独龙家族的狩猎生活	160
囲炉裏にチャゲとチャフ (ごとくとヤカン) 火塘里的三脚架和烧水壶	161
大きな鍋がごとくの上に 三脚架上的大锅	162

主食のタンポツベ (漬し蜀黍) 二人春包谷	163
独竜絨毯を織る婦人 织独龙毯的妇女	164
日向ぼっこ (授業開始まで後3時間) 晒太阳	165
片足を絡げ歌って巡る (日本で馴染の遊び) 蹦蹦跳跳的独龙孩子	166
健脚揃い (山坂を3時間余かけ素足で通う) 赤脚上学的独龙孩子	167
瀾滄江は昌都が起点 (東チベット中心都市) 澜沧江发源地昌都 (西藏东部中心城市)	170
怒江めざし九十九折の他念他翁山を下る “他念他翁” 山脉九十九拐弯	171
削り採られた山肌 风化了的山脊	172
渇水期を迎え、水量の減った怒江 旱季的怒江	173
侵蝕の激しい瀾滄江 风化严重的澜沧江沿岸	175
康巴高原に野営する遊牧民の女性たち 康巴高原的女性牧民	176
玉曲で甲州猿橋の原型発見 (海拔3, 965m) 从玉曲看到的甲州猿桥 (海拔3965米)	177
他念他翁山脈の夜明け (—1 5℃) “他念他翁” 山脉的黎明	178
—1 5℃ダムヨン山を望む (海拔6, 320m) 眺望“达木荣”主峰 (海拔6320米, 零下15℃)	179
他念他翁を望む 遥望“他念他翁”	180
大峡谷にチベット族の住まいを発見 大峡谷里的藏族人家	181
溜筒江を渡って古茶馬旧道往く 穿越溜筒江来往远古茶马古道	184
梅里雪山十三峰の朝焼け (海拔6, 740m) 梅里雪山十三峰晨景 (海拔6740米)	185
主峰カワ格博峰の雄姿 主峰卡瓦格博的雄姿	187
天明の面茨姆峰と吉娃仁安峰 梅里雪山一面茨姆峰和吉娃仁安峰的黎明	188
朝日を受ける面茨姆峰と吉娃仁安峰 迎着朝日的面茨姆峰和吉娃仁安峰	189
主峰梅里雪山と明永氷河 (海拔2, 700m) 远眺梅里雪山主峰和明永冷冰川 (海拔2700米)	190
世界最低の氷河“明永氷水” “明崩氷水” 世界最低冰川“明永冷冰川”	191
ツオンバ (経文布) に願いを込めて 寄托心愿的“风马旗”	192
カワ格博峰溪谷に幅500m長さ8kmの氷河 梅里雪山冰川	193
着飾って端午節を迎えたチベット婦人 着盛装迎接端午节的藏族妇女	194
雲嶺山系から太子峰と五冠神山を望む 梅里雪山—太子峰和五冠峰	195
大峡谷を挟んで布廻松階吾学峰を摂る 梅里雪山—“布廻松阶吾学峰”	196
大峡谷にチベット族の集落が続く 峡谷里的藏族村寨	197
金沙江第一湾 金沙江第一湾	199
瀾滄江第一湾 澜沧江第一湾	200
省境の町升平鎮 (海拔3, 320m) 德钦县城升平镇 (海拔3320米)	201
白茫雪山の主峰扎拉雀尼峰 (海拔5, 429m) 白茫雪山主峰“扎拉雀尼峰” (海拔5429米)	202
アジアプレートとインドプレートが激突 亚洲岩板层和印度岩板层相激突	203
珠巴洛河源流を行く 珠巴洛河源头	204
哈巴雪山北麓の白水台 哈巴雪山北麓的白水台	205
長江第一湾の暮色 长江第一湾暮色	206

あとがき

私が2001年の夏、貴州省へ出掛けたとき、万兆彬さんから从江县高增寨でご厄介になった古老楊氏の娘、楊英恵さんが「貴陽のテレビ局で、俳優としてドラマに出演している」と、また、あの険しい坂道を上り詰めた台江县返排村で、太鼓舞りを踊ってくれた娘さんが「民間舞蹈団の一員として、アメリカやヨーロッパへ親善訪問をした」と聞かされました。心の温まる知らせに感動を覚えました。

雷山县西江鎮で、12年に1度行われるという珍しい祭りにも出かけました。当時、西江中学校の教師だった潘澤俊さんの家にお邪魔して、苗族の伝統習俗を満喫することができました。

今回出版された写真集は、中国雲南省昆明市の雲南美術出版社編集スタッフである林維東氏を中心になって、編集、レイアウト、装丁等を担当しました。なお、カラースキャニングを初めとするカラー製版、印刷製本に関しても、厳しいチェック体制で臨んでいただきました。

ここに映し出された、中国に生きる少数民族の暮らしを通じて、その勤勉さや優しさ逞しさがご理解いただければ幸いです。また、大自然の優れた景観や伝統習俗が、後世に引き継がれるための一助になればと願っています。

徳宏州潞西や保山龍陵地域には、現在でも日中戦争の忌まわしい傷跡が至る所に残されています。悲慘な話題を見聞きするたびに、身の引き締まる思いがいたします。互いに信頼を深め合い、真の友情を積み重ねたいと思います。この写真集が「日中友好の架け橋」になればと思います。

望月睦幸写真集『回歸大自然』—風土と人情—の発刊に際し、写真家であり大阪芸術大学教授でもある土田ヒロミ先生を初め、中國電視藝術家協會記錄片學術委員會名譽會長陳漢元先生や雲南美術出版社社長周文林先生から、お祝いのことばや励ましのことばをいただきました。また、中文翻訳、手配等にご協力いただいた伍金貴さんや劉迪さんなど、多くの関係者に心から感謝とお礼を申し上げます。

望月睦幸

2004年10月于中国昆明

后记

2001年夏天，我前往贵州，在从江县高增寨，听万兆彬先生说：“杨老太太的女儿——杨英惠女士，在贵阳电视台的推荐下成了电视剧的演员”。万先生还告诉我“在那个最难走的、尽是上坡路的台江县返排村里，有一个跳大鼓舞的姑娘，也成了民间舞蹈团的演员，还到了美国和欧洲进行访问演出”。听到这些，我真为她们感到激动和高兴。

雷山县西江镇举办12年一度的苗年节时，我去了。当时，是住在西江中学老师——潘泽俊家，给他们增加了不少麻烦。在他家期间，我从他们那里了解到了许多关于苗族传统文化和风俗习惯。

这本摄影集，是由云南美术出版社的中国优秀中青年编辑林维东先生负责编辑、版面设计和装帧设计工作。从彩色扫描、彩色制版、彩色印刷都是经过他严格校对的。

读者如果能通过这本摄影集了解到中国西部少数民族勤劳、善良、慈祥、健壮等情况，我将甚感荣幸。此外，我希望能以此摄影集为宣传保护大自然、保护传统民族文化、尊重民族风俗习惯助一臂之力。

在云南德宏州潞西和保山龙陵等滇西地区，至今仍然有着许多因“日军入侵”而留下来的“伤痕”，每当听到那些悲惨的叙述，就会使人心惊肉跳。为了加深两国人民相互间的了解，建立起真正的友谊，我希望这本摄影集能够起到“日中友好”的桥梁作用。

借《回歸大自然》——風土與人情個人攝影集出版之際，我深切地向鼓勵和支持出版這本攝影集的日本攝影家、大阪藝術大學教授土田先生、中國電視藝術家協會記錄片學術委員會名譽會長陳漢元先生、雲南美術出版社社長周文林以及各位先生表示感謝。向承擔翻譯工作、長期從各方面給予我支持的伍金貴先生以及協助工作的劉迪女士和有關人士表示衷心的感謝。

望月睦幸

2004年10月于中国昆明

著者略歴

1926年12月 生
1945年03月 甲府中学
1950年03月 法政大学
1951年04月 教員
1963年01月 会社役員



作者像

写歴:

1965年05月 商業写真（商品撮影）
1978年11月 中国初訪問，（少数民族撒尼人の母系社会を見る）
1982年09月 フォトスタジオ建設
1983年08月 撒尼人（彝族支系）普家族を3年間撮る
1989年01月 望月睦幸写真集『四海同胞』出版
1989年01月 第1回写真展“四海同胞”展（山梨県立美術館）
1991年04月 第2回写真展“四海同胞Part2”展（山梨県立美術館）
1992年06月 中国西南地域研究会発足（会員6名）
1993年07月 第3回写真展“中国、南アジアに少数民族をたずねて”
ギャラリー ユーミー（東京・神田）
1994年04月 合同写真展“中国とミャンマー国境の少数民族たち”
ギャラリー 輝（東京・渋谷・上原）
1995年08月 日中合同写真展“元謀土林と納西族三朵節”
J C I I ・クラブ25（日本カメラ博物館・東京・半蔵門）
1995年09月 中日联合摄影展“元謀土林と納西族三朵節”
雲南美術館（昆明南太橋、中国云南省人民对外友好協会・
中国昆明南强摄影研究会・日本“中国西南地域研究会”）
1996年12月 第4回写真展“イラワジ源流に独竜族をたずねて”
J C I I ・クラブ25（日本カメラ博物館・東京・半蔵門）
1998年12月 第5回写真展“玄黄風色図録展”
J C I I ・クラブ25（日本カメラ博物館・東京・半蔵門）
2003年05月 第6回写真展“ヒマラヤ東部三江并流の風景”
J C I I ・クラブ25（日本カメラ博物館・東京・半蔵門）
2004年08月 明朝永楽帝の命を受け、7次に亘る海外遠征を試みた宦官鄭和
の渡航から599年、その足跡を探る旅に出る。
2004年11月 望月睦幸写真集〈回歸大自然—風土と人情—〉出版
2005年01月 第7回写真展，写真集「回歸大自然，一風土と人情—」出版記念
J C I I ・クラブ25（日本カメラ博物館・東京・半蔵門・開催
予定：’05.01.07~’05.01.23）

望月先生简历:

1926年12月 生于日本
1945年03月 在日本山梨县甲府中学读书
1950年03月 在日本法政大学读书
1951年04月 任教师
1963年01月 任公司董事

摄影简历:

1965年05月 从事商业摄影工作
1978年11月 初次访问中国，考察少数民族“撒尼人”的母系社会情况
1982年09月 创建照相馆
1983年08月 就“撒尼人”（彝族支系）普氏家族进行连续3年的摄影工作
1989年01月 望月睦幸《四海同胞》摄影集在日本出版发行
1989年01月 在日本山梨县县立美术馆举办“四海同胞”第一次个人摄影展
1991年04月 在日本山梨县县立美术馆举办“四海同胞Part2”第二次个人摄影展
1992年06月 在日本创立“中国西南地域研究会”（会员6名）
1993年07月 在东京神田画廊举办“中国、南亚地区少数民族”第三次个人摄影展
1994年04月 在东京涉谷上原画廊辉合作举办“中国与缅甸国境的少数民族”摄影展
1995年8月 在东京半藏门摄影博物馆合作举办“元谋土林与纳西族三朵节”摄影展
1995年9月 在中国昆明南太桥云南美术馆合作举办“中日联合摄影展”
主办单位：中国云南省人民对外友好协会
中国昆明南强摄影研究会
日本“中国西南地域研究会”
1996年12月 在东京半藏门摄影博物馆举办“生活在伊洛瓦底江源头的独龙族”
JCII俱乐部25第四次个人摄影展
1998年10月 在东京半藏门摄影博物馆举办“玄黄风色图录展”
JCII俱乐部25第五次个人摄影展
2003年05月 在东京半藏门摄影博物馆举办“喜马拉雅东部三江并流的风景”
JCII俱乐部25第六次个人摄影展
2004年08月 为探访郑和当年的足迹，曾到了马来西亚等许多地方采风、访问
（中国明朝时期郑和受永乐帝的命令曾七次率船队到海外远航）
2004年11月 望月睦幸《回归大自然》中、日文版摄影集在中国昆明出版
2005年01月 在东京半藏门摄影博物馆举办《回归大自然》出版纪念，
JCII俱乐部25第七次个人摄影展

回歸大自然

主编：周文林 / 副主编：彭 晓 方绍忠 / 日文翻译：伍金贵

封面题字：杨修品 / 责任编辑：林维东

回歸大自然

風土と人情 / 风土与人情

望月睦幸寫真集

雲南美術出版社 / 云南美术出版社

序言

在我的记忆之中，我是1983年时，应望月氏的邀约，初次到昆明旅游的。自那以后，望月氏就以旅游作为契机，开始了对中国西南地区的云南、贵州等地少数民族的摄影创作活动。我认为，他向往中国的心情，在幼年时就有的。他青年时就想到中国去留学，但因当时是战争时期（1945年）而未能实现。这些年来，他是那样的执着并不断地往返于中国，可以说已经到了痴迷的境地。五年后，他出版了确有成效的摄影集《四海同胞》。这本摄影集的内容就像其书名一样，表现出来的不仅仅是中国某一个地区或某个民族的风貌和姿态，而是通过一个个生动的场面反映出了“人与自然和谐共处”的动人场景。这就是我们过去没有捕捉到的人间精华。他将自己深入实地的感受和亲身体会，以摄影的方式表现出来了。它是加深日中两国友好关系的优秀杰作。

《四海同胞》摄影集出版之后，我以为望月氏在中国的创作活动已经结束。因为我认为《四海同胞》摄影集的出版已达到了他的基本目标。可是，自那以后，他的摄影活动更为活跃，据说前往中国进行摄影创作的次数就达百次之多。现又将再次出版《回归大自然》摄影集。即将出版的《回归大自然》摄影集与前次出版的《四海同胞》摄影集的立足点虽没有大的变化，但其涉及到的范围更广、内容更丰富，质量更高。

他的摄影创作活动至今已有百次之多，但在出版《四海同胞》摄影集之前，我曾担心他会不

会有越出常轨的行动。因为中国土地辽阔、民族风俗习惯众多、有各种各样的问题。他如能对中国急速发展的经济和社会变化有多一些了解，也许摄影创作就容易些。然而，我的担心是多余的，他超过了当地人，熟知那里的山山水水、河流、村村寨寨甚至每条道路。他有许多的知心朋友，可以说已经成了那里的“主人”。面对高速发展的经济将会对少数民族社会带来的冲击，他为了找回那些失去了的“真迹”，拿起了相机，独自一人连续不断地爬山涉水，深入到边远地区，就像一位“朝圣”的巡者。这已经不是我一个人的看法。

对于一个对具有悠久历史的中国西南地区周边文化抱有深厚感情的男人来说，他的举动已经超越了日中友好关系之上，他为了唤起人们保护世界遗产的意识、构筑一个“人与自然和谐共处”的环境向人们发出了警钟。

《回归大自然》摄影集一书向人们展示的不仅是少数民族民俗学的记录也是对世界最早的文明史做出贡献的一部文献。

大阪艺术大学教授
摄影家 土田宏美

2004年8月27日

序文

最初に昆明への旅を、私が望月氏に誘ったのは1983年だったと記憶している。彼は、その旅をきっかけに中国西南地域の雲南、貴州などの少数民族の取材を開始する。彼の中国への関心は、若き十代に留学せんとして戦況（1945年）に阻まれ、果たせなかったというノスタルジックな思いからかと、私は勝手に判断していたが、しかし、余りにも偏執して旅を繰り返す彼の姿に、何かに憑つかれたのではと、危ぶむほどであった。そして5年後、確かな成果を写真集『四海同胞』に結実する。題名から明らかなように、そこに表現されていたのは、単に中国の一地域の、民族の姿かたちだけに留まるものではなかった。自然と神の子のように交歓して生きる人々の姿を通じて、我々が遠い昔に失ってしまった人間賛歌を。しかし、そこに留まらずに、彼自身の現地での他者との深い交わりから生まれた写真群を通じて、日中相互理解を深めたいとするメッセージがよく読み込めるよう表現された秀作であった。

これで、彼の中国での創作活動は終わると私は考えていた。なぜなら『四海同胞』には、大方の目標が達成されているように思われたからである。ところが彼の旅は、その後いつそう活発になる。取材旅行は、百回にも及んだという。そしてここに再び『回帰大自然』が上梓された。基本的なスタンスは、前作『四海同胞』と変わることはない。しかし、より広域にわたり、より細部へ進行して、その完成度を高めている。

ここに至る百回にも及ぶ彼の取材活動は、前回の『四海同胞』の時以上に常軌を逸した頻度のようにも思う。しかし、中国大陆の広大さ、民族習俗の多様さ、ディティールの深さ、そして、激変する中国経済構造の影響を知れば知るほどに茫々たる思いに駆けられたに違いない。そんな不安を払

拭するために、彼は地元の中国人以上に、山のかたち、河の流れ、村の道筋を熟知し、そして多くの知己を得ていったに違いない。そして、もはや一人の土地の者になって、崩壊が予感される少数民族の社会を高度成長経済の嵐から身を挺して守り通さんとするかのようにカメラを握りしめている。そのようにして独り奥へ奥へと歩みつづける彼の姿が、まるで聖地に向かう巡礼者の姿と重なって見えるのは私だけであるまい。

悠久の歴史に育まれてきた中国の西南地域周辺の文化に限りない愛を抱く一人の男の旅路は、もはや日中両国の相互理解を越え、伝え続けるべき世界遺産—自然と人の営みの豊かさ—の喪失への警鐘ともなっている。繰り返せば、この『回帰大自然』に提示されているイメージは、一少数民族の民俗学的な記録表現だけではない、現在、世界が抱えている最先端の文明史的状况を、高い批評性をもって語られているドキュメントでもある。

2004年8月27日

写真家 土田ヒロミ

（大阪芸術大学教授）

祝 詞

この27年もの長い間に、ある人は、120回という驚くべき数を、遠く遙かな土地をめざして巡り歩いたと言う。それは聖地への巡礼ではなく、ビジネスでもなく、商業活動でもなかったのである。この人の物語は私のような平凡な人間にとっては、理解できないことである。

この人こそ、日本人の望月睦幸先生なのである。

望月睦幸先生は中国少数民族が暮らす西南地域に出向いて、数々の写真を撮影した。これらの写真は、自然の山々を始め河川、家屋それに人々の生活、人々の優しい笑顔……これら一連の作品は、現代の物質文明から遙かに遠ざかっているように感じさせられる。実に羨ましい限りである。

人間は本来自然が創り出した産物である。しかも、自然の一部分なのである。しかし、時代の流れは逆に人々を自然から遠ざけてしまった。人々は遠ざけてしまった行為に対して恥じなくてはならない。

望月睦幸先生は、これらの作品から第1回目には、写真集『四海同胞』を、第2回目には写真集『回歸大自然』を出版された。

私が理解に苦しむのは望月睦幸先生は企業家であり、それなりの仕事で忙しく現代の文明社会に生活しているわけだが、なぜ、わざわざ遠くの貧しい辺境を選んで撮影を続けるのか。それは望月睦幸先生が写真集を通じて、多くの人々に大自然の豊かさを理解してもらい、人間の優しさを取り戻して欲しいとの願いを込めたメッセージであると感じている。

以上は私の推測ではあるが、只々頭の下がる思いである。

望月睦幸先生の行動力や精神力には無駄がないばかりか、数多くの友人を得て相互理解を深めてきたに違いないと固く信じている。

2004年8月16日

陳漢元

中國電視藝術家協會記錄片學術委員會名譽會長

祝词

在这27年里，有一个人曾120次去过一片遥远的土地。他不是去朝圣，也不是去做公务，更不是去做商业活动。这个人这件事，实在让我这样的凡夫俗子费解，颇感神秘。

这个人就是日本的望月睦幸先生。

这件事就是这位先生深入到中国西南少数民族地区拍摄了不计其数的照片。

这些照片记录的是自然的山、自然的水、自然的房舍、自然的生活、自然的笑脸——这一切的一切离现代的物质文明好象都比较远，但令人羡慕。

人、本来就是自然的产物，是自然的一个组成部分，但随着时光的流逝，人就变得越来越不自然了，甚至快要离开自然了。

人类好象跟自己过意不去了。

望月先生用这些照片出的第一本写真集名曰《四海同胞》，这次出的第二本写真集名叫《回归大自然》。

我似乎有点恍然大悟，望月先生身为企业主，要做的事有的是；他又生活在现代物质文明高度发达的社会，为什么偏偏要跑到穷乡僻壤去拍照，而且不厌其烦、持之以恒呢？大概就是想利用写真集所提供的实情实景，唤起四海同胞回归纯朴、纯真、纯洁的大自然吧。

这只是我的猜想。反正，不论望月先生此举的驱动力是什么，我对此一直怀着敬意。

我深信望月先生的用心和精力不会白费，会有知音千千万！

中国电视艺术家协会记录片学术委员会名誉会长

陈汉元

2004年8月16日

祝詞

心象にしみる湯の花

——『回帰大自然』を拝見して

望月睦幸先生の芸術的な写真集『回帰大自然』を拝見して、私は繰り返して考えた。写真家望月睦幸先生は、何を考えているだろうか。作品を通して何を訴えたのか。また彼はどのような芸術的な追求を行おうとしているのだろうか。

望月睦幸先生は日本人である、私が知り合った外国の友人中で、雲南を最も多く訪ねられた外国人である。彼は雲南の山々や河川、風土と人情を熱烈に愛し、真摯に彼の親族や友人知人、同僚等に伝えている。

彼は自分の故郷に“中国西南地域研究会”を組織した。彼は毎年のように撮影グループを編成して雲南に出掛ける。彼は常に撮影した作品の展示会や写真講座を開催し、交流会を通じてそれぞれの体験や経験を話し合っている。

彼は素朴で優しく勤勉で大自然を愛する人である。中国雲南地区の峻しい山々や河川渓谷などを歩き回っている。彼は68才の時から、2回に亘ってラバを連ねて山を越え、川を渡り住む人が少なく、その上毒蛇や野獣が出没し、蚊や毒虫に刺されても医者や薬のない独竜江大峡谷に足を運んだ。しかし、旅の生活は困難を極め、時には山中や渓谷などに野営を余儀なくされた。彼は何かに憑れたようである。カメラを手にして山々や渓谷、風土や人情などを映像に納めている。人と自然とが共に調和した感動の場面を我々に披露してくれた。“中日両国人民の友好”を深めてくれた。これは望月睦幸先生の心象の世界で彼が追求に止まないところである。

諺に「心は霊の源である」と言われ、源があれば霊が表現される。望月先生が山を撮影すれば、山の素晴らしい姿が再現され人々を感動させる。河川を撮ると、川の威勢よく流れる姿が撮られ、雲や太陽や月を撮ると光と影の美しいさが伝わってくる。人物を撮ると、その人の純朴さや心の優しさが表現され、お互いに心と心が通じ合うようになる。

望月先生の撮影した作品を拝見した人々は、彼がその美しいさを追及する過程で、美を発見し表現する中で、美を芸術として彼自身の心象を表現しているように

思われる。彼は芸術作品の撮影を生涯のライフワークとしている。

望月先生は、事実について真理を求めようとする人で、歴史の事実を尊重し、少数民族の伝統文化、生活、風俗習慣などを見守り育てたいと願っている人である。言葉は通じなくても、人々と仲良くしていた。彼は中国西南地域に住む少数民族の女性たちを「聖族」と考えている。その理由として、彼女たちは野良仕事や家事や子育ての責任を背負っている。彼女たちは平凡であるが偉大である。彼女たちは勤勉で優しく苦勞にめげない人々である。収入は少ないが貢献するところは大きく大である。彼女たちの娘時代は娘らしく、恋人が出来たら好い恋人に、嫁になったら良い嫁に、母親になったら良い母親になることに努めている。中国少数民族の女性たちは、先祖伝来の人生上の美德として、現在も伝え続けている。女性がいなければ世界には光彩がなくなる。望月先生は進んでそれらの光彩が絶えないように守り続けている人である。

ここで雲南芸術家達が収集した少数民族の歌謡一曲を思い出した。彼女たちはこのように歌うのである。“女性がいなければ、囲炉裏の光がなくなる。”“女性がいなければ、男性は病気になる…”と、これは単純な歌謡であるのかいいえ、これは中国西南地域の少数民族の女性たちの優しさと勤勉さを述べた人生哲学である。このことを知り尽くした芸術家として、中国少数民族の女性たちをカメラを通して撮影し続けるであろうと私は固く信じている。

雲南美術出版社社長

周文林

2004年8月15日

祝词

心灵深处的泉华

——读望月睦幸《回归大自然》

拜读了望月睦幸先生的艺术摄影画册《回归大自然》之后，我反复在想，作为摄影家的望月先生，他在想些什么呢？他要用摄影作品来表现些什么呢？他的艺术追求到底是什么呢？

望月先生是日本人，是我认识的外国朋友中到云南次数最多的外国人。他深情地热爱着云南的山山水水、风土人情，并将这种挚爱传给了他的亲属、朋友和同事。他在自己的家乡还亲自组织创立了“中国西南地域研究会”，带领一批志同道合的摄影爱好者，每年都要到云南来“采风”。他还经常举办一些宣传中国西部少数民族风土人情的摄影展和讲座，交流经验。他是一位朴素、慈祥、不知疲倦、热爱大自然生活的人。他走遍了中国云南地区的崇山峻岭，平川河谷。他68岁时曾二次步行、骑马深入到人烟稀少，毒蛇野兽出没，蚊虫叮咬，缺医少药，甚至连路都没有的独龙江峡谷。生活虽然极为艰苦，有时还要路宿山野，但他就像着了迷似的，不断地用自己手中的相机记录下了那里的山山水水、风土人情和历史。将“人与自然和谐相处”的感人场景展现在了人们的眼前，“为加深中日两国人民的友谊”架起了友好往来的桥梁。这就是望月先生的心灵世界，这就是望月先生的追求。

俗话说：心为灵之源，有了源才有灵的表现。为此，望月先生拍摄山时，就要拍出山的俊秀雄姿，动人的壮景；拍摄河流时，就要拍出它奔流不止、永往直前的情景；拍摄云、日、月时，就会把那一缕缕光线拍得壮美感人。拍摄人物时，就要拍出人的纯朴和表现心灵美的姿态，让你一看就会有一种心心相通的感受。

凡是仔细欣赏过望月先生作品的人，都会有一种感觉。那就是望月先生是在追求美、发现美、表现美，以美为艺术来表答自己的心灵，把摄影艺术作为自己的一种事

业去追求。

望月先生是一位实事求是、尊重历史、尊重少数民族生活、风俗习惯的人。他深入高山峡谷，尽管语言不同，但总能与那里的人们和睦相处。他认为：中国西部地区的少数民族妇女们都是人文景观中的“圣族”，他们担负着生产劳动、治理家务、繁衍人类和教育下一代的重任，既平凡又伟大。她们勤劳善良、吃苦耐劳，索取少，奉献多。她们做女儿时是好女儿，做恋人时是好恋人，做妻子时是好妻子，做母亲时是好母亲。在她们身上，始终保留着人世间远古传下来的美德。没有她们，世界将会失去光彩。望月先生就是用自己的行动在不断地呵护着这道光彩。

说到这里，我想起了一首云南的艺术家们收集到的少数民族歌谣，妇女们是这样唱的：“没有女人嚟，火塘就不会亮了；没有女人嚟，男人就会生病了……”。这是一首单纯的民歌吗？不，它是少数民族妇女们贤惠善良的人生哲学。凡是知道这一点艺术家，就绝对不会怠慢他们的笔下或镜头下的中国西部少数民族妇女。我深信望月先生正是这样一位艺术家。

云南美术出版社社长

周文林

2004年8月15日

《回歸大自然》解説

望月睦幸

中国西南地域は日本列島西端の秋吉台に連なるカルストの大地と、ヒマラヤ造山運動が示すように、驚くほどの長い年月をかけて、数多くの山岳高地と河川湖沼などの天地空間を創造しました。

これらの大自然を背景にした辺境には、貧しい生活を余儀なくされながらも、おおらかで心優しく、たくましい人々が暮らしています。私が出会った独竜族の郷長は、『自然が暮らしを支えてくれる。ありがたいです。』と話し、僅かばかりの蜀黍の収穫にさえ、手を合わせて応えてくれました。

豊かな暮らしにはまり込み、自然破壊の現実を見詰めることさえできない人々への警告のように聞こえました。

『回歸大自然』心から、風土と人情を取り戻したいと願って止みません。

No. 1-No. 21解説；

苗族：739万人（1997年調査）、主な居住地域は貴州省50%、雲南、湖南に10%が住む。

布依族：254万人、貴州南部一帯に漢族と雑居し、仲家と呼ばれる。

瑶族：213万人、広西に68%が住み、湖南、貴州、雲南、広東など山岳地域に居住し、営林事業に優れた才能をもつ。

No. 22-No. 24解説；

壮族：1,548万人、少数民族の中で最も人口が多く、主に広西壮族自治区に居住する。一部が広東、貴州に暮らし、雲南南部のベトナム国境にも住む。

侗族：251万人、貴州、湖南と広西の山岳多雨地域に居住する。

No. 25-No. 40解説；

佤族：35万人、雲南西南のミャンマー国境の山岳地帯に住む。西盟に暮らす大佤は、1957年まで首狩り習俗を残し、ミャンマーのシヤム高原やタイランドに足を延ばし、集団で移動を続けていた。滄源一帯の小佤は、100年前に定住化が進められ、狩猟民から農民へと定着した。

拉祜族：41万人、雲南南部の瀾滄江流域の山地とミャンマー国境には黄拉祜（小乗仏教徒）拉祜納（キリスト教徒）、拉祜西（自然宗教信仰）の3部族が住む。ラフとは虎を喰う意。

No. 41-No. 66解説；

傣族：102万人、ミャンマー国境に近い、シーサンパンナの亜熱帯地方に水傣族、徳宏州に旱傣族、紅河流域の金平には花腰傣族が住む。

哈尼族：125万人、雲南南部の河谷山地に居住し、開田耕作に優れ、棚田を東南アジアにまで広めた功績は大きいといわれている。

布朗族：8.2万人、シーサンパンナ布朗山の山岳地域に住む。

基诺族：1.8万人、景洪県基諾山区に住み、現在でも原始林に入って集団で鹿やイノシシの狩猟をする。

No. 67-No. 87解説；

德昂族：1.5万人、雲南西南のミャンマー国境地域に住み、佤族

や布朗族と同じ南アジア語系モン、クメール語族である。徳宏州には約77%が生活している。隴川県戸弄郷には、ちょっとモダンな黒崩竜が、潞西県三台山郷に紅崩竜が、梁河县二古城に花崩竜が、潞西県勐嘎郷に黄崩竜が住んでいる。

阿昌族：2.7万人、雲南徳宏州隴川に50%が居住（小阿昌=昌撒）する。鍛冶に優れ、刀剣や農機具を製作する。梁河には大阿昌=傣撒（45%）と呼ばれる人々が居住する。

景颇族：11万人、主に雲南西部徳宏州の、ミャンマー国境山岳地帯の辺境に住む。怒江州瀾水県片馬や古浪には、古代習俗を伝える茶山景頗と呼ばれる人々が生活し、盈江、隴川、潞西、梁河などに、大山景頗、小山景頗、浪速景頗の支系が住んでいる。ミャンマーには同族のカチン族が約45万人、インドのナガランドにも約3千人が住んでいる。

No. 88-No. 118解説；

纳西族：27万人、雲南麗江納西自治県に五分の三が住み、他は維西、中甸、寧蒗などに、また、僅かではあるが四川、西藏にも住む。母系社会の形態を今日に残す摩梭人約6千人である。

白族：159万人、主に雲南に居住し、その80%が大理自治州に住む。

怒族：2.7万人、雲南西北部の怒江流域に住む。貢山=阿竜、福貢=阿怒、碧江=怒蘇の三方言区に別れる。民族間の交流は少ない。

傈僳族：57万人、雲南西北部、怒江傈僳族自治州の碧江（黒傈僳）、福貢（白、紅、黒傈僳）、貢山（白、紅傈僳）、瀾水（黒、花傈僳）が住む、ミャンマー国境徳宏州には、花傈僳の一部が居住する。1957年、中国統一後ミャンマーに移住した花傈僳も多い。

彝族：657万人、四川涼山に27%が住み100余りの支系がある。雲南、貴州、広西などに居住する。

No. 119-No. 142解説；

独龙族：0.58万人、雲南西北部の、ミャンマーとの国境担当力卡山系と、高黎貢山山脉の谷間を流れる独竜江两岸に、集落を作らず点在して住む。1950年以前の独竜族は、孔当以北に住む人々が察哇竜のチベット農奴主に、孔当以南に住む人々は傈僳族蓄奴主に支配を余儀なくされ、残酷な搾取と圧迫、略奪を受け、社会発展が著しく遅れた。孔当以北の50歳以上の女性は、顔に紋様の刺青をしている。以南には刺青の習俗はない。

No. 143-No. 152解説；

藏族：459万人、中央部の拉萨をユイといい、中国語で衛蔵または前蔵と呼び、日喀則を中心とする地域を后蔵と呼んで一方方言区とした。更にチベット東部の昌都を中心とする地域を康、又は西康と呼んでいる。北部に広がる唐古拉山南麓の那曲地域を安多と呼んで三つの方言地区に大別する。

《回归大自然》解说

望月睦幸

中国西南地域，一面是与日本列岛西端的秋吉台相连接的石灰岩地带，一面是由于亚洲岩板层和印度岩板层相激突而形成的喜马拉雅山脉。同时，这个地区由于经过长年累月的地壳变化，形成了许许多多的高山峡谷、山川湖泊。

在这种严酷的大自然条件下，生存着许多只能靠微不足道的包谷来维持生存的人们。他们虽然很贫困，但是他们却温柔慈祥，心胸开阔、坚韧不拔。我见到独龙江的一个乡长曾合掌面对我说：“感谢大自然赐与了我们今天的生活”。他的话是对那些生活在富裕中而去破坏大自然的行为敲起的警钟。

《回归大自然》衷心地希望人们去恢复大自然中的风土与人情。

No. 1—No. 21解说：

苗族：739万人，主要居住在贵州、云南、湖南省（其中：贵州占其民族总人口的50%左右）。

布依族：254万人，主要居住在贵州省，与汉族杂居。又称为仲家。

瑶族：213万人，主要居住在广西、湖南、贵州、云南、广东的山岳地带。其中：广西占其民族总人口的68%左右。

No. 22—No. 24解说：

壮族：1548万人，主要居住在广西壮族自治区。其中一部分居住在广东和贵州以及云南南部边境一带，它是少数民族中人口最多的一种民族。

侗族：251万人，主要居住在贵州、湖南和广西的山岳多雨地区。

No. 25—No. 40解说：

佤族：35万人，主要居住在云南沧源、西盟、孟连、耿马、双江、镇康、澜沧等县的山岳地带。居住在西盟的大佤，到1957年都还有狩猎的习惯。历史上由于缅甸掸邦高原的影响和统治者争夺领地，所以群体迁徙较多。然而，居住在沧源一带的小佤，却在100年前就已向定居型发展，故已从过去的狩猎民族转向了定居从事农业的民族。

拉祜族：41万人，主要居住在云南南部的澜沧江流域和与缅甸相接的国境山岳地带。其中：“黄拉祜”信仰小乘佛教；“拉祜纳”信仰基督教；“拉祜西”信仰自然宗教。“拉祜”就是猎虎的意思。

No. 41—No. 66解说：

傣族：102万人，主要居住在云南与缅甸国境相接的西双版纳亚热带和德宏州各县及红河流域的金平一带。居住在西双版纳亚热带的为水傣；居住在德宏州一带的为旱傣；居住在红河流域金平一带的为花腰傣。

哈尼族：125万人，主要居住在云南南部的河谷地带，在开山造田、水稻耕作方面有着悠久的历史，所开垦的梯田闻名于世。

布朗族：8.2万人，主要居住在云南西双版纳布朗山的山岳地带。

基诺族：1.8万人，主要居住在云南景洪县的基诺山区，如今仍保持着过去的狩猎习惯。

No. 67—No. 87解说：

德昂族：1.5万人，主要居住在云南与缅甸相接的西南部地区。与佤族、布朗族同属东南亚语系中的孟高棉语系民族。有77%的人

口生活在德宏州，分别居住在陇川县的户弄乡、潞西县的三台乡、梁河县的二古城和潞西县的勐嘎乡。过去，曾把居住在陇川县户弄乡的德昂称为时髦的“黑德昂”，把潞西县三台乡的德昂称为“红德昂”，把梁河县二古城的德昂称为“花德昂”，把潞西县勐嘎乡的德昂称为“黄德昂”。

阿昌族：2.7万人，50%的人口主要居住在云南德宏州的陇川县。称为“小阿昌、昌撒”，善于冶炼、制作刀剑和农业生产工具。45%的人口居住在梁河一带，称为“大阿昌、傣撒”。潞西县内占5%。

景颇族：11万人，主要居住在云南西部的德宏州和与缅甸相接的边境山岳地带。另外，在怒江州的泸水县片马和古浪地区，还居住着仍保持着古代习俗、被称为“茶山景颇”的景颇支系。盈江、陇川、潞西、梁河等地还居住着“大山景颇”、“小山景颇”、“浪速景颇”等支系。在缅甸近似的克钦族也约有45万人。在印度的那加兰也还居住着0.3万人。

No. 88—No. 118解说：

纳西族：27万人，其人口的五分之三居住在云南丽江纳西族自治县，其他居住在维西、中甸、宁蒗等地。除外，还有摩梭人。在四川、西藏也还有。摩梭人至今仍保持着母系氏族的风俗习惯，其人口约有0.4万人。

白族：159万人，主要居住在云南，其中80%是居住在大理白族自治州。

怒族：2.7万人，主要居住在云南西北部的怒江流域。分为贡山，即：阿龙、福贡，即：阿怒、碧江，即：怒苏三个方言区。民间交流较少。

傈僳族：57万人，主要居住在云南西北部、怒江傈僳族自治州的碧江（黑傈僳）、福贡（白、红、黑傈僳）、贡山（白、红傈僳）、泸水（黑、花傈僳）境内。另外，在德宏州与缅甸相接的边境地区还居住着一部分花傈僳。1950年，有许多花傈僳移居到了缅甸。

彝族：657万人，主要居住在云南、贵州、广西等地。其中有27%的人口是居住在四川凉山，有100多个支系。

No. 119—No. 142解说：

独龙族：0.58万人，主要散居在云南西北部与缅甸边境相接的担担力卡山脉和高黎贡山脉河谷之间的独龙江两岸。1950年以前，居住在孔当以北的独龙族属察哇龙的西藏奴隶主管辖。然而，居住在孔当以南的独龙族则属傈僳族的土司管辖。由于他们受尽了残酷的剥削、压迫和掠夺，所以，社会发展非常缓慢。居住在孔当以北的50岁以上的独龙妇女都有文面的经历。可居住在孔当以南的独龙妇女却不文面。

No. 143—No. 152解说：

藏族：459万人，中央部的拉萨称为“卫藏”。汉语称为“卫藏”或“前藏”。以日喀则为中心的地区称为“后藏”。东部的昌都地区称为“康”或“西康”。北部辽阔的唐古拉山南麓的那曲地区则称为“安多”。分为三大方言地区。

（注：以上少数民族人口数量为1997年统计）